

沖縄ブロックにおける社会資本整備重点計画の策定について

1. 社会資本整備重点計画について

(1) 社会資本整備重点計画

社会資本整備重点計画法（平成 15 年法律第 20 号）に基づき、社会資本整備事業を重点的、効果的かつ効率的に推進するために、新たな社会資本整備重点計画（H27～H32）が平成 27 年 9 月 18 日に閣議決定。

【新たな計画のポイント】

- 1) 厳しい財政制約の下、社会資本のストック効果が最大限に発揮されるよう、集約・再編を含めた戦略的メンテナンス、既存施設の有効活用に重点的に取り組むとともに、社会資本整備の目的・役割に応じて選択と集中の徹底を図るため、計画期間に実施する重点施策とその進捗を示す指標を明示。
- 2) 社会資本整備を支える現場の担い手・技能人材の安定的な確保・育成、現場の生産性向上などに向けた具体的な方策を明記。
- 3) 社会資本整備を計画的かつ着実に実施し、担い手を安定的に確保・育成するため、安定的・持続的な公共投資の見通しの必要性を明確化。

(2) 地方ブロックにおける社会資本整備重点計画

各地方の特性に応じて重点的、効率的、効果的に社会資本を整備するための計画として社会資本整備重点計画に基づき国が策定。

【特徴】

- 1) プロジェクトにおける主要取組について時間軸を明確化
- 2) プロジェクトを進めることで期待されるストック効果が見える化
- 3) 主要取組について、「既存施設の有効活用とソフト施策の推進」「選択と集中の徹底」「既存施設の集約・再編」に分類

2. 沖縄ブロックにおける社会資本整備重点計画について

これまで、沖縄県、市町村をはじめ地方経済界、有識者等との十分な意見交換を行い、沖縄ブロックにおける社会資本整備重点計画（原案）をとりまとめ、パブリックコメント及び市町村への意見照会を実施し、平成 28 年 3 月 29 日に策定。

沖縄ブロックにおける社会資本整備計画においてはプロジェクト毎に以下の取組を行うこととしている。

(1) 主要取組記載の特徴

各取り組みについて、「既存施設の有効活用とソフト施策の推進」・「選択と集中の徹底」・「既存施設の集約・再編」に分類し、プロジェクト毎に代表性が高いと考えられるものについて期待されるストック効果や完成時期を明示して記載。

1) 既存施設の有効活用とソフト施策の推進

- ・社会資本のストック効果を最大化するためには、蓄積された既存の社会資本を最大限活用することが重要であることから、沖縄においてはインフラ施設の長寿命化等の取り組みを行うこととしている。

<主要取組の例>

- プロジェクト: 地域特性に応じた社会資本の戦略的な維持管理・更新

事例: 中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るためのメンテナンスサイクルの核となるインフラ長寿命化の個別施設計画策定の促進

【道路橋の長寿命化修繕計画策定（沖縄全県）（H27 年度導入中）】

（期待されるストック効果）

長寿命化計画を策定する事により、中長期的なトータルコストの縮減や予算の平準化が期待できる。

- プロジェクト: メンテナンス技術の向上と効率的な維持管理・更新の推進

事例: 社会資本の安全を確保するための研修や講習の促進

【道路等メンテナンス研修の実施（H27 年度推進中）】

（期待されるストック効果）

各種社会資本のメンテナンス技術の向上や産学官の連携により新技術の導入を図ることで、効率的な維持管理とトータルコストの縮減が期待できる。

2) 選択と集中の徹底

- ・厳しい財政制約の下、社会資本の整備においては、計画期間中、効果の高い事業に選択と集中の徹底を図る必要があることから、沖縄においては、公園の整備、空港の機能強化や交通網の整備等の取り組みを行うこととしている。

<主要取組の例>

- プロジェクト: 沖縄の特性をいかした世界水準の観光・リゾート地形成

事例: 沖縄の特性をいかした都市づくり

【国営沖縄記念公園都市公園事業（那覇市、本部町）（H27 年度工事中）】

（期待されるストック効果）

入域観光客数 1,000 万人誘客に向けた諸施策の実施等により、沖縄観光が好調に推移し、県内のホテル稼働率がリーマンショック以前の水準を上回り 81.1%（H27 年 1 月～9 月）と最高値を記録した。また、求人倍率（季節調整値）も 0.89 倍（H27 年 10 月）と復帰後の最高値を 3 か月連続で更新し、今後も着実に改善が進むことが見込まれる。

➤ プロジェクト:臨港・臨空型産業の集積による国際物流拠点形成、国際交流拠点形成、観光・リゾート地形成

事例:空港機能の強化

【那覇空港滑走路増設事業（那覇市、豊見城市）（H27 年度工事中）
〔H31 年度完成〕】

（期待されるストック効果）

那覇空港の発着回数は年々増加しており、那覇空港滑走路増設事業により、将来の航空需要が対応可能となることが見込まれる。

➤ プロジェクト:道路交通円滑化・利便性向上による産業振興、観光・リゾート地形成

事例:交通網の整備（ハシゴ道路・2 環状 7 放射道路）

【一般国道 506 号 那覇空港自動車道小禄道路（那覇空港 I C～豊見城・名嘉地 I C））（那覇市、豊見城市）（H27 年度工事中）〔H30 年代完成〕】

（期待されるストック効果）

本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶ幹線道路網や 2 環状 7 放射道路等を整備する事により旅行速度の向上が図られ、産業の振興、観光地間の所要時間の短縮、渋滞損失時間の減少が期待される。また、それにより、観光地の立ち寄り箇所や滞在時間の増加が可能となり、旅行満足度の向上が期待される。

➤ プロジェクト:駐留軍用地跡地の迅速かつ効果的な利用

事例:駐留軍用地跡地の迅速かつ効果的な利用

【土地区画整理事業（アワセ土地区画整理事業）（北中城村）（H27 年度工事中）〔H31 年度完成〕】

（期待されるストック効果）

現在、駐留軍用地跡地であるアワセ地区において、公園、医療施設・スポーツ施設、リゾートショッピングモール、住居等の開発が行われている。それにより、機能複合型ショッピングモールという新たな観光拠点が生まれ、素通りが多かった中部地区に多くの観光客が訪れており、今後整備を行うことで経済効果が生まれ周辺地域の活性化に寄与することが期待できる。

➤ プロジェクト:生物多様性を保全し、人と自然が共生する社会の実現

事例:水質汚濁対策

【中部流域下水道整備事業（污水处理の普及）（那覇市ほか）（H27 年度工事中）】

（期待されるストック効果）

下水道施設の整備や各種污水处理事業の推進等により、清潔で快適な生活環境の確保、水質の保全、下水道資源の有効利用、浸水対策、下水道人口普及率の向上が期待される。

➤ プロジェクト:環境負荷の小さい、低炭素・循環型社会の構築

事例:公共交通システムの充実

【沖縄都市モノレール延長整備事業（那覇市、浦添市）（H27 年度工事中）〔H30 年度完成〕】

（期待されるストック効果）

幹線道路の整備や沖縄都市モノレールの延長整備等により、CO2 の排出の削減が期待される。

➤ プロジェクト:健康で快適に暮らせる生活環境の確保

事例: 景観・環境・利用に配慮した都市形成の推進

【国場川広域河川改修事業（那覇市、南風原町）（H27 年度工事中・用地取得中）〔H30 年代完成〕】

（期待されるストック効果）

親しまれる港湾空間の整備や河川改修事業、都市公園事業等により、豊かで快適な生活環境の確保や地域やまちの活性化が期待される。

➤ プロジェクト: 災害に強い国土の構築と防災・減災体制の強化

事例: 地震・台風災害対策

【一般国道 58 号無電柱化推進事業（宜野湾市）（H27 年度測量設計中・工事中）】

（期待されるストック効果）

平成 3 年度より「景観・観光・安全・快適・防災」の観点から電線類の地中化を推進し歩行者の安全で快適な空間を確保するとともに、台風等による電柱倒壊などの道路寸断防止が図られ、安全性の高いまちづくりが図られている。

➤ プロジェクト:安全安心な生活や離島定住のための生活環境の確保

事例: 港湾機能の強化

【平良港 漲水地区複合一貫輸送ターミナルの整備（宮古島市）（H27 年度工事中）〔H29 年度完成〕】

（期待されるストック効果）

港湾ターミナルの整備により旅客の快適性・安全性の向上と貨物荷役の効率化が図られる。また、航路の整備により、海難事故の減少や生活物資輸送コストの削減が図られることで、離島不利性が緩和され、離島住民の定住率の向上が期待できる。

3) 既存施設の集約・再編

- ・全国において、人口減少や高齢化が急速に進む地域においては、公営住宅の建て替えや下水道事業等による集約・再編に取り組むこととしているが、沖縄ブロックにおける社会資本整備重点計画で該当する事業は現時点ではない。